



■発行所／(株)びゅ〜すまいる編集舗・みまもり未来プレス編集部
 ■2026年3月19日発行号 ■発行者・編集人／八木澤 晃 ■毎月第3木曜日発行

しんか <https://www.mimamori-nurse.com/>

【熊本発・次世代型訪問看護】ボタン一つで看護師と会話・駆けつけ

『どこでもナースコール』と『24時間見守りカメラ』で在宅療養に施設レベルの安心を提供

『訪問看護ステーション見守りナース』は、会話可能な『どこでもナースコール』と『24時間見守りカメラ』を標準活用し、利用者とその家族に24時間365日の安心を提供する新しい訪問看護サービスである。運営はしんか(熊本市南区)。住み慣れた自宅で療養を望む高齢者が増える一方、離れて暮らす家族や日中独居となる高齢者の「突然の体調不良」や「転倒」などへの不安は大きい。従来の訪問看護はスタッフが訪問している時間帯のケアが中心であり、それ以外の時間帯の見守りや緊急対応は家族の負担が大きいという課題があった。同ステーションはこうした課題を解決するため、IoT技術と医療・看護の専門知識を組み合わせた次世代型の在宅看護体制を熊本から提案している。

サービスの特徴は、まず自宅のどこにいてもボタン一つで看護師と会話できる『どこでもナースコール』である。双方向の通話によりその場で状況を確認し、必要な初期対応の指示や不安の軽減を図

ることができる。また、プライバシーに配慮しながら室内の様子を確認できる『見守りカメラ』を設置。家族はスマホなどから安否を確認でき、離れて暮らす家族の精神的負担の軽減につながる。さらに異常を察知した場合や利用者からのSOSがあった場合には、看護師が必要に応じて自宅へ駆けつける体制を整えている。

具体的には、夜間の急な体調変化や転倒時の呼び出し対応、カメラ越しの声かけによる服薬管理、遠方の家族による日常的な安否確認など、在宅療養を支える多様な場面で活用できる。看護師による専門的なケアとデジタル機器を組み合わせることで、在宅でありながら施設に近い安心感を提供する取り組みとして注目される。

同社は「在宅にいたがら施設のような安心・安全な環境をつくりたい」という思いか

ら事業を開始したとしており、看護師のケアと最新機器の活用を通じ、利用者だけでなく介護を担う家族の負担軽減にも貢献していく考えである。現在、サービスの取材や機器デモンストレーション、利用者や家族へのインタビューなどにも対応している。

株式会社しんかが運営する『訪問看護ステーション見守りナース』は、地方発のヘルステック(医療×IT)による新しい在宅看護モデルとして、地域の高齢者が安心して暮らせる環境づくりを目指している。



**シニアが元気になると
日本が元気になる！**

**元気シニア倶楽部
会員募集中!!**

—入会費・年会費なし—

一般社団法人
日本元気シニア総研

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿 4-4-5 第3伊藤ビル4階
tel.050-5533-3100 fax.03-5791-5859 Email.info@genkisenior.com



親の見守りニーズ対応 SOS機能・服薬リマインダー搭載スマートウォッチを発表 離れて暮らす家族の安心を支える見守り機能を搭載

家族の見守り機能を備えたスマートウォッチが登場した。L&Lライブリーライフ(東京都立川市)は、SOS機能や服薬リマインダーなどを搭載したスマートウォッチを発表した。心拍数測定や睡眠記録などの日常的な健康管理機能に加え、離れて暮らす家族の安心をサポートする見守り機能を備えたウェアラブル端末として展開する。父の日や母の日、敬老の日、誕生日などのプレゼント用途も想定している。

日本では高齢化が進み、家族による見守りの重要性が高まっている。総務省の統計によると、国内の65歳以上の高齢者人口は約3,600万人とされ、総人口の約3割を占める。一方で、仕事や生活の都合により親世代と離れて暮らす世帯も増加しており、家族の健康や安全を気遣う「見守りニーズ」は年々高まりを見せている。こうした背景から、健康管理やコミュニケーションを支援するスマートウォッチなどのウェアラブル機器への関心も拡大している。

同社ではこうした社会状況を踏まえ、日常生活の中で無理なく使える見守り機能を備えたスマートウォッチの開発を進めた。なお、本製品は医療機器ではなく、健康管理機能は日常生活の参考

情報として利用することを想定している。

見守りと健康管理を両立するスマートウォッチ

本製品の特徴は、見守り機能と日常的な健康管理機能を一体化している点である。緊急時には、あらかじめ設定した連絡先へ通知を送るSOS機能を搭載しており、万が一の際の連絡手段として活用できる。また、設定した時間に通知を行う服薬リマインダー機能により、高齢者に多い薬の飲み忘れを防ぐサポートも可能だ。

さらに、長時間同じ姿勢が続いた際に体を動かすタイミングを知らせる「長時間座りすぎ通知」を搭載。心拍数測定や歩数計、睡眠記録などの健康管理機能も備えており、日々の活動量や睡眠状態の把握にも役立つ。Bluetooth通話やスマートフォン通知にも対応し、スマートフォンと連携することで通話や各種通知の確認も可能となる。

ディスプレイには1.85イン

チの大画面を採用し、通知や情報を見やすく表示できる点も特徴である。さらにIP68の防水性能を備え、日常生活のさまざまなシーンで安心して利用できる。バッテリーは260mAhの大容量を搭載し、約2.5時間の充電で最大約35日間の使用が可能としている。

同社は2015年の創業以来、日本市場向けにスマート家電や生活家電を展開してきた。「高品質をより手に取りやすく」をコンセプトに商品開発を進めており、スマートウォッチやイヤホン、スマートフォンアクセサリなど幅広い製品を提供している。



<https://livelylife.jp/>

アイデアの商品化を推進する 身近なヒント 発明展

特許料
3億円!

アイデア
募集中

特許料
6千万円!

発明家たちの
登竜門

企業の
新製品
開発に



小さな創造を社会に活かす
一般社団法人 発明学会

<https://www.hatsumei.or.jp/>

こちら『元気シニアビジネスアドバイザー!!!』

ブレインモンジュ・林野均の「シニア`萬、遊記」第102回

認知症は4割予防することができる?

東海大学医学部の和佐野浩一郎教授とデンマーク・コペンハーゲン大学認知症センターのカスパー・ヨーゲンセン上席研究員による国際共同研究グループは、日本の公的統計や疫学データを用いた解析によって、理論的には国内の認知症の38.9%が生活習慣や健康状態の改善によって予防可能であることを明らかにし、研究成果は国際的医学誌「The Lancet Regional Health-Western Pacific」に掲載されました。

この研究では、日本における最大の危険因子が「難聴 (6.7%)」であり、次いで「運動不足 (6.0%)」、「高LDLコレステロール (4.5%)」であることを特定、いずれも対策により改善が期待でき、これらを含む14の要因を一律

に10%低下させるだけで、将来的に20万人以上の発症を抑制できる可能性が示されました。

近年、アミロイドβを標的とした抗体医薬など、新たな治療法が登場していますが、その効果や、高額な医療費や適応条件の厳しさなどから、実臨床での普及には課題が残っています。このため、「治療」だけでなく、発症そのものを遅らせる、あるいは防ぐ「予防」の重要性が増しています。

こうした流れの中で、権威ある医学誌「The Lancet」の認知症委員会は、生活習慣や環境要因などの介入可能な危険因子への対策により、世界全体で認知症の約45%が予防可能であると報告しています。しかしこれは欧米を中心とした国際データに基づくものであ

り、日本の社会構造や健康特性を十分に反映しているとは言えません。今回の研究では日本の公的統計や疫学研究データを用いて日本における認知症予防の潜在的可能性を評価しました。これにより、今後、どの危険因子に、どの程度優先的に介入すべきか、議論が進められるものと思います。

*東海大学のニュースリリースより



*画像はイメージです

Author / 林野 均 (はやしのひとし)

プランニング・ブレイン・モンジュ代表 / 一般社団法人 日本元気シニア総研研究委員

『元気シニアビジネスアドバイザー』資格を取得後、元気シニア総研研究委員として、シニア向け商品やサービスの取材を「自らのシニア目線」で精力的に行なっている。

<https://planningbrain.com>



デイサービス生活相談員ネットワークの
『生活相談員』講座

ちっちゃいマメをおっきく育て、
夢のある未来を創造します。

株式会社スリービーンズ

<http://3beans.jp>

Let's enjoy your senior life

元気なシニアライフを
応援します!

<https://planningbrain.com>

シニアのためのコンシェルジュ

プランニング・ブレイン・モンジュ

tel.090-3682-3310

子ども見守りGPS『みもり』—— 1日の行動を“生活リズム”として可視化

子どもの行動履歴を自動整理する新機能「生活リズム」提供開始

学校業務支援システム『マチコミ』や子ども見守りGPSサービス『みもり』を展開するドリームエリア（東京都渋谷区）は、子どもの行動履歴を自動で整理し、1日の生活の流れをスケジュール形式で確認できる新機能「生活リズム」の提供を開始した。従来の見守りGPSが通知中心の利用であったのに対し、子どもの1日の行動を“生活リズム”として可視化することで、保護者がより直感的に子どもの行動を把握できる見守り環境を提供する。

これまでの見守りGPSでは、子どもが自宅を出発した時や学校へ到着した時などの通知をリアルタイムで受け取る使い方が主流であった。しかし通知が増える

につれ、実際には出発や到着を確認するだけにとどまり、行動履歴を振り返る機会は多くなかったという。また履歴確認には操作の手間もあり、通知を確認して終わってしまうケースも少なくなかった。こうした課題を受け、同社では通知情報を単発の出来事として扱うのではなく、「1日の行動の流れ」として把握できる新機能を開発した。

■子どもの行動を自動整理する「生活リズム」機能

「生活リズム」機能では、通知履歴や活動範囲（通知エリア）の入退出履歴、端末の利用状況、保護者とのやり取りなどの情報を基に、子どもの1日の行動を自動的に整理し、時系列のスケジュール形式で表示する。これにより保護者は、いつ自宅を出発したのか、何時に学校へ到着したのか、いつ下校して帰宅したのかといった日常の移動を、1日の流れとして一目で確認できるようになる。

さらに行動履歴は1週間単位でも表示されるため、登下校のリズムを俯瞰して

把握することができる。帰宅時間がいつもより遅い日や、生活パターンの変化などにも気づきやすくなり、日常の小さな変化を見逃さない見守りにつながるといえる。

また、設定した活動範囲から外れていた時間があった場合には、その時間帯がタイムライン上に表示される仕組みも備えている。これにより、普段とは異なる行動や寄り道などの変化にも気づきやすくなる。さらに『みもり』は不審者情報とも連動しており、不審者が発生したエリアに子どもが近づいた場合には端末が音声やランプで警告し、保護者へプッシュ通知を送信する機能も搭載。新機能では、その日の行動の流れの中でのタイミングで該当エリアを通過したのかも確認できる。

同社は今後、AIを活用した行動レポート作成機能などの開発も予定しており、見守り情報をより分かりやすく整理する仕組みの強化を進めていく考えである。『ドリームエリア』（東京都渋谷区）は2001年創業。2005年に地域情報サービス『マチコミ』を開始し、現在は全国47都道府県、225自治体、14,000以上の施設で導入されている。2018年には見守りGPSサービス『みもり』を開始し、子どもの安全を支える見守りサービスの提供を続けている。



「食」を真剣に考えるひとのための資格！

食生活アドバイザー®の活躍のフィールドはとっても広い

- 生産、流通、販売などの現場で
- 医療、福祉などの現場で
- 飲食の現場で
- 学校、家庭などで

www.flanet.jp

食生活アドバイザー

検索

CLICK

フリーダイヤル 0120-86-3593 TEL 03-3371-3593



一般社団法人

FLAネットワーク協会 (Food & Lifestyle Adviser)

食生活アドバイザー® 検定事務局